

act 6

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館
アクト

AUGUST 2011

ダンス

DANCE





これって ダンスなの？ からはじめてみよう。

ダンスと一口に言っても、バレエもあれば日舞、フラダンスもあり、ヒップホップにブレイクダンスとその種類はさまざま。でもひとつ言えることは、どんな国にもその土地特有の踊りがあるということ。まるで国ごとに言葉の違いがあるように。つまり、「踊る」ということはしゃべることと同じくらい原始的なことなんです。

そんなダンスの「いま」は、まさにボーダレス。国は関係なく、種類も様式も関係ない「コンテンポラリーダンス」というジャンルも誕生しました。コンテンポラリーとは「同時代」という意

味。「いま」の時代に生まれた新しいダンスをすべて含みますが、そんなコンテンポラリーダンスにも収まりきれない勢いで活動し続けているのが、世界でも珍しい男性だけのダンスカンパニー「コンドルズ」。ダンスだけにこだわらず、人形劇、コント、映像、音楽、演劇など幅広い表現で舞台を作り上げています。これまでの「ダンス」の概念からかなりはみだし続けるコンドルズを知れば、観るだけじゃないダンスの面白さがわかるはず。ダンスの新時代に、あなたも立ち会ってみませんか？

舞い、跳ね、弾ける



CONDORS

CONDORSの舞台では学ランがユニフォーム。踊ったかと思えばコントも披露し、日本のみならず海外でも好評を得ている。どのパフォーマンスにも共通するのが、突き抜けたおもしろさ。そのはじけっぷりは一見の価値あり。
CONDORSの最新情報をチェック! [CONDORSオフィシャルHP] <http://www.condors.jp>

Interview

近藤 良平インタビュー
[ダンサー・振付師]

すし職人がダンスを学ぶ時代がきた

奇抜なアイデアとパフォーマンスで世界中から注目されているダンスカンパニー・コンドルズ。その一団を率いる近藤良平さんにお話を伺いました。

日本語が苦手だった子ども時代

いまはこうやって流暢だけど、昔はすごくしゃべることが苦手。子ども時代を南米で過ごしたから、お腹がすいたとか事实は言えるけど、気持ちの部分うまく言葉にできなかったんですね。だから国語のテストとか最悪でした。「この文章の気持ちを読み取りなさい」なんて、もう無理(笑)。言葉が含んでいる感覚を読み取ったり、表現する部分がまったく欠けていたんですね。そういう意味で、言葉を通さない表現のほうが好きだったのは、小学生くらいがいっぱい強かったか

もしれない。そのあとはマイケル・ジャクソンがひそかに師匠で、誰かにダンスを習ったことはなかったんです。人にみせるダンスは大学に入って、たまたま受けた創作ダンスの授業をおもしろく感じて、そのままダンス部に入学。そこからですね、ダンスを始めたのは。

気がついたら仕事になっていた

ダンサーっていうのはいまでこそ職業的な位置づけがあるけど、20年くらい前は、ダンスをやりたいんですね。すっていったら「は？」って言われちゃう時代だったんです。男のダンサーも珍しくて、ましてや振付

家になりたいっていつでもどこで何を勉強すればいいの?っていう感じでした。でも、逆に言えば振付家ですって言ったもん勝ちの時代でもあった。

僕は卒業直前に海外一人旅に出て、戻ってきた後も早稲田近辺をふらふらしていました。なんか面白いことをやりたいってね。でも、事務所に入ってオーディションを受けるということには一切興味がなかった。だって、自分が作りたいっていう気持ちのほうずっと強かったんです。そんなときにポンキッキーズの振り付けを頼まれて、「あ、振り付けも仕事になるんだ」って初めて知ったくらい。だから、ダンスを仕事にしたいと思ったことは全然なくて、気がついたら仕事になっていたという感じなんです。

路上パフォーマンスとも、体操とも違う「ダンス」

96年に、コンドルズを結成して初の公演に取り組んだんですけど、その時、ダンスの作品を作るのは路上でのパ

フォーマンスとは全然違うってわかったんです。照明、音響、美術、いろんなものがあって、みんなで力を合わせなきゃ完成しない。初舞台はそれまで考えたこともないことばかりで、とにかく大変でした。でも、それと同時に本番はめちゃくちゃ充実してるんですね。「表現」しようと思ったら、キャンパスに一人で絵を描くことだってできる。でもダンスは完全に「総合的な表現」なんです。それぞれの得意な分野を混ぜ合わせて発表するのは、時間も手間もかかるけどすごく楽しい。うまく言えないけど、それがわかったときにはまったというか、ダンスを続けていこうっ



PROFILE
近藤 良平
Ryohi Kondo

コンドルズ主宰 ダンサー・振付師
1968年生まれ。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。世界20ヵ国以上で公演を行う。男性のみのダンスカンパニー・コンドルズ主宰。NHK総合「サラリーマンNEO」内「サラリーマン体操」、NHK教育「からだであそぼ」内「こんどうさんちのたいそう」、「かもしれないたいそう」に振付出演。一方で横浜国立大学、立教大学などで非常勤講師としてダンスの指導も行っている。

職業じゃなく、「身体」という単位で踊ってみる

最近、デザインを職業にしている人とか、すし職人さんが僕のワークショップにくるようになってるんですよ。仕事ってコミュニケーションが必要だから、

と思ったんですよね。もうひとつ、ダンスの魅力は、ある意味目的がないってこと。体操は目的があるんです。健康になるとか、ダイエットに効果があるとか。だから、ダンスはやらなくても体操は普通の人でもやったりする。ダンスは学校で体育としてしか扱われないけれど、本来は音楽、美術みたいに芸術分野として教えたいほうがいいんです。ただ楽しむだけのもの。それがダンスなんだと思います。

この頃はインターネットの動画サイトなんかで「踊ってみた」というタイトルで素人の人が踊っていたりしますよね。踊りの種類に流行とか偏りはあるかもしれないけど、今のほうが「ダンスを楽しもう」という空気感が昔よりずっとあると思います。

現代の人は「もっと身体を使ってコミュニケーションをとらなきゃ」と感じているようなんです。ネットとか電話とか、そういうものばかりうまく使っても、肝心の人間と意思の疎通ができないといけない。そういうことに敏感なクリエイティブな人が、手がかりとしてダンスを始めるようになってきているんです。僕のダンスはどっちかっていうと原始的で、まず「動いてみよう」から始めるので、経験がない人もチャレンジしやすいみたい。そんなメンバーだからこそ感動的な話がこの間あって。僕のワークショップはコンタクトといって、人と人が触れ合う、たとえば押し引いたりすることをお勧めします。この動きには相手の心を読むというか、自分の「押ししたい」という気持ちだけじゃなく、「押しでもいい」タイミングをつかむのが大事なんです。そしたら、すし職人さんがコンタクトを続けているうちに「包丁の感覚が変わりました!」って。骨に当たる感触がはつきりしてきて、魚の切り方が変わったって(笑)。

これは特別な例だけど、ダンスは身体を動かすもの。だから、身体を動かすすべての分野に応用できる可能性が、ダンスにはまだまだあるって思いますね。

World Dance

世界のダンス

世界各国で作りだされた踊りの数々。バリエーションの多さは民族の多様な姿をあらわしています。



社交ダンス
起源はヨーロッパ宮廷の舞踏会。男女組になって踊り、ワルツやタンゴなどの種類がある。



クラシック・バレエ
「バレエはイタリアに生まれ、フランスで育ち、ロシアで成人した」と言われる、ヨーロッパで愛された芸術。今もさまざまなダンスの基礎になっている。



コサックダンス
日本でもおなじみの、しゃがんだまま足を片足ずつ交互に出すダンス。



日本舞踊
日本の踊りの総称。200を越える流派があり、雅楽や神楽、盆踊りもそのひとつ。



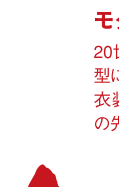
ジャズダンス
アメリカの黒人たちによって発達したジャズ音楽の誕生と同時期に生まれたが、いまはジャズ以外の音楽でも踊られている。1930年代後半よりブロードウェイ・ミュージカルなどで踊られているダンス。



サルサ
ニューヨークのプエルトリコ移民が中心になり作られた比較的新しいペアダンス。



モダンバレエ
クラシックバレエの技術などをもとに創られた新作バレエ。



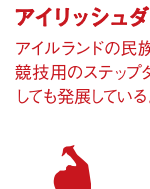
モダンダンス
20世紀初頭、アメリカで生まれた。型にはまった踊りではなく、自由な衣装とアイデアで踊るスタイルの先がけ。



ヒップホップ
ヒップホップミュージックにあわせて踊るダンス。バレエ、ジャズ、タップ、ダンスホールレゲエや民族舞踊など、様々なダンスの要素が取り入れられており、現在も変化し続けている。



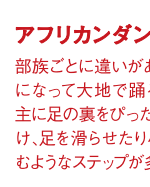
タンゴ
今から約130年前にアルゼンチンで生まれた、男女ペアで踊る情熱的なダンス。



アイリッシュダンス
アイルランドの民族舞踊。競技用のステップダンスとしても発展している。



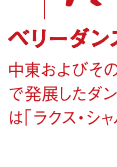
フラメンコ
スペインの民族舞踊。歌、踊り、ギターの手奏で繰り広げられる。



アフリカンダンス
部族ごとに違いがあるが、裸足になって大地で踊ることから、主に足の裏をぴったり地面につけ、足を滑らせたり小刻みに踏むようなステップが多い。



インド舞踊
巫女たちの踊り・バラタナティヤム、パントマイムを含んだカタカリなどの四大舞踊からなる。



ベリーダンス
中東およびその他のアラブ文化圏で発展したダンス。アラブ文化圏では「ラクス・シャルキー」と呼ぶ。



フラダンス
ハワイで生まれた伝統的な民族舞踊。手の振りひとつひとつが、手話のように意味を持っている。

Others

現代のダンス



近現代に生まれたダンスは基本的にボーダレスで、広い地域の人々によって踊られている。国や形式などの枠にとらわれないので、まだまだ新しいジャンルが生まれそう。

コンテンポラリーダンス

クラシック・バレエの技術に基づいたものが多いが、演劇的要素も強い。さまざまなジャンルを取り入れつつ、いまもなお新しいダンスが創られている。



踊ってみる? 近藤良平流 ダンスの心得3カ条

大人も思わず踊っちゃう体操や、子どもでも踊れるダンスを創る近藤さんに、たのしく踊るポイントを教えてもらいました!

- 1 はずかしいくらいがちょうどいい。**
「踊れるわけないでしょ」と考えているあなた。ダンスは日常の動きの中にある。たとえば友達に手を振るとき、おもいっきり振ってみて。日常10%、ちょっとははずかしいくらい。それがすでにダンス!
- 2 友達のクセをまねてみよう。**
自分にはわからないけど、人から見たらちょっと笑っちゃうクセ。それをまねる①の「ちょっとおかげさ」をミックス。これでもう次のステップだ!
- 3 誰かとおどろろ。**
ダンスといったら鏡を見ながら練習する人が多いけど、そんな必要はない。誰かと向かい合って踊れば、その人が自分の鏡になってくれる。1人よりも2人。みんなで踊ろう!

さらにもう一步! ダンス応用編

これまで紹介したのは、みられることをメインにしたダンス。でも、ダンスは盆踊りやフォークダンスみたいな「みんなと楽しむこと」や、「コミュニケーションを取りやすくするため」にも踊ったりする。そんな最近の「身近なダンス」をご紹介します。

- ◎**にゅ〜盆踊り**
「盆踊り」を現代風に近藤良平さんがアレンジ。公共劇場「あうるすぽっと」のワークショップと参加型公演が一体になった企画で、昨年は池袋の公園で「にゅ〜盆踊り」大会を開催。3,000人以上も浴衣を着た人々が参加した。
※近藤さんに馴染みのある演劇の街・池袋の区立劇場。
- ◎**オペラ体操**
札幌市教育文化会館・コミュニティダンスグループTaneが、北海道教育大学アートマネジメント研究室の学生と共同開発した、誰にでもできる5分間の体操。オペラの名曲に合わせ、登場人物になりきって喜び、からかい、愛などの感情をこめて体操しているうちに、不思議と生きる楽しさや力が湧いてきます。
- ◎**アルゴリズム体操**
一人でやると何が何だかわからない振り付けだけど、二人でやると意味を持つ動きになる、という不思議な体操。NHK教育テレビ「ピタゴラスイッチ」の人気コーナー。お笑いコンビの「いっつもここら」がいるんな場所に行くと体操するのが恒例となっている。